

一 教育方針

〔1〕 学校教育目標

郷土を拓く大地の教育

菅平の発展は、長い年月にわたる先人の開拓の上に打ち立てられており、子どもたちの教育は、先人から受け継いだ区民のたくましい開拓精神によって支えられている。

いま、国際化・情報化の時代をへて、社会が多様化し、将来の社会の変化を予測することが困難な時代となっている。本校では、菅平の自然・歴史・産業・文化を大事に受け止め、この郷土菅平の将来や広く日本の未来を一層拓くために、自らの生涯を生き抜く力を培えるよう、生涯学び続けていく自立した学習者の育成をめざし、豊かな大地に学ぶ心を育てる教育をすすめる。

めざす子どもの姿 「自立した学習者」

<自立とは>

- ◎協働して目の前の問題を解決していける姿
 - ・自分のわからなさがわかる
 - ・わからないことをわからないと言える
 - ・困っていることを困っていると言える
 - ・自分の思いを伝えられる
 - ・周りの人と協力してできる

【めざす学校像】…授業で子どもたちの取り巻く問題や課題を解決する学校
「協働の学び」「本質的な問い」

【めざす教師像】…子ども理解をベースに、子どもの心や思いに耳を傾け、つなぐ教師

1 子ども理解

子ども理解を全教育活動のベースとして考え、職員自らが個の生き方や考え方を尊重し、まず聴くことをスタートとして接することを大事にしたい。子どもの言動には、必ず理由がある。なぜその行動をとるのか、なぜそんなことを言うのか、その場だけでなく、できる限り子どもの背景にあるものまで観たい。そして子どもの良い面・課題とする面もいったんすべて受け止めてから、どうするかを職員全員で共有化したい。支援の方向については、一方的なとらえではなく様々な視点からもあわせ、子ども1人ひとりのよさに気づき、可能性を引き出せるような支援を目指し、全職員ですべての子どもにあたっていく。

このような多様性を認め、多様性を包みこみ、多様性に応じた指導を継続していくことで、すべての子どもが安心して学べる学校づくり、自分も他者も大切にすることの育成をめざしたい。

2 本校ならではの学び ～9年間の学びをつなぐ～

少人数の良さや強みを活かして、菅平だからこそできる教育活動を展開したい。義務教育9年間の学びをつなぐカリキュラムの創造をはかり、発達段階に応じた学習内容や指導・支援を行う。そして、「目的意識をもって学習していく姿」「自分なりの学び方を身につけていく姿」をめざし、子どもも教師もPDCAサイクルで授業・学習改善に取り組む。あわせて、これまでの一斉教授方の授業から脱却し、「単元の核心」に迫れるような「本質的な問い」から、具体的に子どもが気づいたり、発見したりする活動を示し、適切な思考・判断・表現を導いていく。

3 持続可能な社会の実現に向けた総合的な学習の推進

菅平では80%以上の保護者が地元産業に就き、また25～35歳の男子卒業生の半数は菅平に戻って生活をしているという特徴がある。子どもたちや地域の将来を考えたとき、菅平の産業（農業・観光業）に携わりながら、地域の発展のために積極的に関わろうとする人材づくりは欠かせない。

そこで、「ふるさと菅平に学び、郷土の自然や地域と共生する力」の育成をめざし、生活科、総合的な学習の時間、スキー活動等の充実をはかる。地域との交流を通して菅平ならではの本物体験・感動体験を子どもと共に味わいながら、各教科で身につけた資質・能力を活かした課題別・探求的な学習を進める。そしてこの地に誇りをもち、菅平を愛する心情を育み、菅平に住む住民の一人として何をすべきか考え、判断し、行動できる自立した人間を目指していく。

4 経営理念と重点活動

子ども、教職員、保護者、地域、スキークラブ等の関係者、菅平小・中学校の過去・未来の人・もの・ことについて、それら・それら同士も含めて思いや考えをつなぐ菅平の学校でありたいと考える。そこで本年度の菅平小・中学校の経営理念を「つなぐ学校」とした。すべての教育活動において、この理念が活かされているか絶えず意識していただきたい。授業構想の時、生徒指導の問題発生の対応時、保護者・地域との関わり方、スキー活動のあり方など、「つなぐ学校」にふさわしいかどうかを参照してほしい。そのために、まず本年度は「聴く」ことからスタートし、「伝える（発信する）」へ進めるよう道をつくる年であると考え、以下の重点活動をもとに実現を図っていくこととした。

本年度の重点活動

- (1) 協働の学びを軸とした授業づくり
- (2) 持続可能な社会の実現に向けた総合的な学習の推進
- (3) 多様性を認め、多様性を包み込む 集団づくり

